

# ベンジャミン・グレアムの有価証券投資に関する考察

## 株式市場におけるヴァリューストック投資について

### 【目次】

はじめに

#### 第1章 ベンジャミン・グレアム

##### 第1節 ベンジャミン・グレアムについて

#### 第2章 有価証券投資における証券分析

##### 第1節 投資と投機

##### 第2節 証券分析の役割

##### 第3節 証券分析における数量的、質的要因

##### 第4節 証券の本質的価値

#### 第3章 企業の収益力と株価

##### 第1節 1株当たり利益について

##### 第2節 普通株の株価収益率（PER）

#### 第4章 資産価値と株価

##### 第1節 簿価（帳簿価格）の重要性について

##### 第2節 流動資産価値の重要性について

#### 第5章 ヴァリューストック投資における諸概念

##### 第1節 ミスター・マーケット

##### 第2節 安全域

##### 第3節 分散投資の理論

#### 第6章 ヴァリューストック投資の実践

##### 第1節 「日油技研工業」と「きもと」社

##### 第2節 「サンコー」と「オーデリック」社

おわりに

参考文献

### 【目的】

パソコンやインターネットの普及により、個人投資家の投資環境は証券会社の自己売買部門に近いものとなった。この環境の変化が個人投資家にデイトレードという取引手法を蔓延させ、投資という名の下に多くの投機が行われるようになった。自分の勘のみに頼った投資が行われる一方で、投資を行うには銘柄の価値を測るための技術と基準が必要であることに気が付いた。

本論では、ヴァリューストック投資の基礎を築いたベンジャミン・グレアムの投資技術と基準について考察し、それを実践することを目的としている。

### 【方法】

ベンジャミン・グレアムのヴァリューストック投資に関する書籍を読み知識を深めると共にヴァリューストック投資について考察する。4社の日本企業を恣意的に選択し、ヴァリューストック投資の概念を参考に有価証券報告書から当該銘柄の価値を導き出した。

### 【結論】

グレアムの言う企業価値と株価の差（安全域）を重視することで、損失のリスクを最小限に抑えることが可能である。安全域は、投資対象銘柄が企業価値と比較して割高か割安かを導き出し、株価に依存しない投資をする上では必要不可欠の投資概念である。安全域、企業の収益力、資本・収益構造について調査し、割安で好業績であると判断できる銘柄群に分散投資をすれば、株式投資で利益を得る可能性は高くなる。

### 【参考文献】（一部掲載）

ベンジャミン・グレアム、デイビット・L・ドッド『証券分析 1934年版』パンローリング（2002）

ベンジャミン・グレアム、デイビット・L・ドッド『新賢明なる投資家 上・下』パンローリング（2005）

ベンジャミン・グレアム、スペンサー・B・メレディス『賢明なる投資家 財務諸表編』パンローリング（2001）

中邑悟『株式用語 1000 辞典』日本実業出版社（2002）

しん『謎のトレーダー「しん」の<株>ヴァリューストック投資法』かんき出版（2005）